

受講番号 18068 学校名 介良中学校 氏名 宮本 真未

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年1組(Bコース) 生徒数 29名
 科目名 3年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 NEW HORIZON English Course 3

クラスの様子・特徴

全体的には、明るく活気のあるクラスである。意欲的に学習し、授業を盛り上げる発言ができる生徒も多いが、時にけじめがつきにくくなることもある。英語の授業は希望者を対象に基礎を充実させるAコースとその他のBコースに分けて行っている。

問題の確定

英語学習において「書くこと」を苦手と感じている生徒が多く、この苦手意識を解消していくことが英語学習全体の意欲を高めると考えられる。

予備調査

A 授業の観察

板書を写し書くことはほとんどの生徒ができていますが、自分で書く(修学旅行記【教科書P.19】)ことに、抵抗を感じている生徒が多く見受けられる。また、授業開きで行ったアンケートでは、「英文を書くことがむずかしい」、「書けるようになりたい」という回答が多く見られた。

B 生徒による授業評価

1学期には評価表を使った授業評価はできなかったが、最後の授業に行ったアンケートの「英語の授業は楽しい?」の項目にYes 20名、No 6名、YesとNoの中間が1名という結果が出た。

C 学力データ

CRTの大領域の得点率は「聞くこと」67.7%、「話すこと」68.5%、「読むこと」61%、「書くこと」56.6%となっており、この結果からも書く力が十分身に付いていないことが分かる。

リサーチ・クエスチョン

「書くこと」の力を伸ばすには、どのような指導が効果的であるか。

仮説・実践・検証

仮説1

日々の授業で「書くこと」の時間を必ず位置づけるようにしていけば、生徒に「みんなで取り組んでいる」という気持ちを持たせることができ、「書くこと」への興味が大きくなるのではないかと。

実践1

日々の授業の初めに「書くこと」の時間をとり、生徒にみんなで取り組んでいるんだからがんばってやる、という気持ちを継続させるようにした。この取り組み専用のノートを「ハーフノート」と名付け、取り組みを浸透させていった。

検証1

アンケートより
 ハーフノートの取り組みについて
 みんなでやったので、がんばれた? [Yes 23 / No 6]
 英語を「書くこと」への興味が大きくなった?
 [Yes 16 / No 13]
 以上の結果から、がんばったものの「書くこと」への興味を大きくするには至らなかった生徒が半数近くいた。

仮説2

英文を書く前にその英語を読めるようになり、意味を理解することで、「書くこと」への抵抗を小さくできるのではないかと。

実践2

ハーフノートには書こうとする英文の日本語も書かせ、練習する時に意味の確認ができるようにした。また、練習前に英文の読みの練習をして、読める文を書くことへとつなげていった。そして、テスト前には書く練習をする時間を確保した。

検証2

アンケートより
 毎回のテスト前の読む練習や書く練習について
 英文の意味がわかっていてよかった? [Yes 27 / No 2]
 読む練習をしてよかった? [Yes 27 / No 1] (YesとNoの間 1)
 書く練習をしてよかった? [Yes 28 / No 1]
 以上の結果から、テスト前の手立ては概ね効果的であったと思われる。

仮説3

書けた(書こうとした)時に肯定的な評価をして、生徒に達成感を持たせることで、また書こうとする意欲を高めていけるのではないかと。

実践3

毎回のテストで満点の生徒のハーフノートにはシールを貼るようにした。このシールをもらうことも意欲を高める手段になると考えてのことである。また、採点したハーフノートには簡単なコメントを書くようにした。

検証3

アンケートより
 評価について
 シールはよかった? [Yes 25 / No 1] (YesとNoの間 3)
 先生からのメッセージは読んだ? [Yes 29 / No 0]
 シールやメッセージは次もがんばろうという気持ちを高めた? [Yes 25 / No 3] (YesとNoの間 1)
 以上の結果から、シールなどは生徒の意欲を高めたと思われる。

研究の成果

授業開始時に英文を「読む」「書く」「テスト」を定着させることで生徒の集中力が上がり、授業に落ち着いて取り組むことができた。そして、英語の意味がわかることや読むことができることが英語を書くことができるようになるための下地になることを生徒は実感したようである。また、肯定的な評価を続けることで、生徒の意欲を高めることができた。さらに、今回の取り組みをきっかけに生徒とのコミュニケーションの機会が増え、生徒理解にもつながった。

今後の授業改善の課題

『生徒が「楽しい」と感じながら授業にのぞみ、学習していることが「わかった」という達成感(喜び)を味わえるような授業をする』をモットーに、教材研究を大切にしていきたい。また、基礎的事項の理解ができていない生徒や学習意欲をなくしている生徒への手立てをもっと図っていかなければならない。そのためにも、個々の生徒への肯定的評価をさらに充実させていきたい。